

核兵器のない世界のためのパートナーシップ

被爆 78 年 2023 年 8 月 9 日 長崎大司教館

核兵器のない世界のためのパートナーシップ

広島と長崎への原爆の投下から 78 年にあたり、私たちは、核兵器による被害を受けた地域にあるカトリック教会の 4 教区の司教として、「核兵器のない世界」の実現を目指して共に歩み始めることを宣言します。そして、被爆 80 年を迎える 2025 年 8 月までに、「核兵器のない世界」の実現に向けて具体的な進展があることを切望します。

核兵器の保有そのものが倫理に反するという教皇フランシスコの思いと教えに基づいて、世界の指導者たちに対して、2023 年 5 月に広島で開かれた G7 サミットの首脳に求めたような核兵器廃絶に向けた具体的な取り組みを進めるよう、再び呼びかけます。

- 広島と長崎の原爆投下が被爆者に与えた途方もなく大きく、また、長期的な苦痛を認識すること。
- 世界中で行われたウラン採掘、核兵器の研究、製造、そして実験による甚大で長期的な人的被害、および環境破壊の現実を認識すること。
- 核戦争に勝者はおらず、決して行ってはならない戦争であることを繰り返し訴え、また、2022 年 11 月に G20 が合意したように、核兵器による威嚇やその使用は「許されない」ことを強調すること。
- 新たな軍拡競争を防止し、核兵器の使用を警戒して、核兵器廃絶を進めるための具体的な措置を発表すること。
- 今から半世紀以上前、1970 年の核不拡散条約で約束された、核軍縮につながる真剣な多国間交渉に入るという国際的な使命を尊重すること。
- バチカンが最初に署名・批准した核兵器禁止条約を支持すること。

同時に、私たちは宗教者として、私たち自身も核兵器のない世界の実現を推進するために、リーダーシップを発揮する責任を認識し、新たなイニシアチブをとることに合意しました。具体的には、教皇フランシスコが 2019 年 11 月 24 日に広島で発信していたメッセージの「思い出し、共に歩み、守る」を精神として、私たちの 4 教区からはじめ、その他の教区、さらには宗教を超えたパートナーシップの構築を呼びかけたいと思います。

「思い出す」とは、

悲痛に満ちた歴史から学び、現状を見つめ、平和の文化を築くことです。

「ともに歩む」とは、

一緒に祈り、支え合い、行動することです。

「守る」とは、

特に核被害者を救済し、核兵器によって破壊された環境を回復し、共通の家である地球を保護することです。

すべての宗教団体の皆さまには、この精神に基づく具体的な活動の展開を呼び掛けたいと思います。

わたしたち4教区は

① 「思い出す」ために

- ・ヒバクシャ、ウラン鉱山労働者、平和活動家、原子力技術者、軍人、外交官などの声に、日頃から耳を傾け、対話すること。
- ・核兵器の脅威や被害について学習する機会を設けること。

② 「ともに歩む」ために

- ・固有の祈り（文末参照）をもって、個人としてあるいは共同体として、神の助けを願うこと。
- ・核兵器のない世界の実現を目指して、少なくとも1年に1回、ミサを献げ、可能なならば、核被害者の支援と核兵器によって破壊された環境の回復のための献金を呼びかけること。

③ 「守る」ために

- ・核兵器禁止条約への署名・批准を推進する活動を行うこと。
- ・核兵器の製造・保管に費やされる資金を、弱い立場にある人々の救済や環境問題への対処に用いるよう、世界の政治的指導者に働きかけること。

未来の世代に平和の遺産を残すために、核兵器による被害を体験した地域にある4つの教区の司教である私たちは、司祭団、修道者、信徒に対して、「思い出し、ともに歩み、守る」ためのパートナーシップに積極的に参加するように呼びかけます。

平和への道は険しいものです。私たちだけの力で歩いていくことは到底できません。この私たちのパートナーシップの歩みの上に、平和の王であり、私たちと共に歩んでくださる真のパートナーであるキリストに祝福を祈り求め、平和の母である聖マリアの取り次ぎを願います。

世界の平和のための祈り
(聖ヨハネ・パウロ二世教皇の祈りを参照)

偉大なるいつくしみ深い神、平和といのちの主よ、
あなたは苦しみではなく、平和のための計画をお持ちです。
あなたは戦争と暴力を非難します。

あなたは、近くにいる者にも、遠くにいる者にも
平和がもたらされるように、また、すべての人種、国家が
一つの家族となるように、イエスをお遣わしになりました。
被造界のすべての生き物を脅かす戦争、
暴力と死の連鎖をわたしたちは望みません。
神よ、全人類の心からの叫びを聞いてください。
今、この地上で起こっている戦争や紛争を一日も早く終結させてください。

人類の運命のかぎを握る人びとが、復讐や報復の論理を
用いないよう働きかけてください。
この地上で二度と核兵器が使用されないよう助けてください。

聖霊を遣わし、対話、忍耐、勇気を通して、
問題解決への新しい道を見出すことができますように。
わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

平和の元後の取り次ぎを願う祈り

平和の元后、キリストの母マリアよ、
わたしたちの贖い主であるキリストが、
この地上にもたらされた平和の実現のために、あなたの助けを願います。
キリストがすべての人の心から、
平和を脅かすあらゆるものを取り除いてくださいますように。
キリストがわたしたちを、真理と正義と愛の証し人に変えてくださいますように。
キリストがその光で、諸国の政治的な指導者たちの心を照らし、
国民の福祉だけではなく、核兵器による絶滅の恐れがない平和という
すべてのいのちを守る大切な贈り物のために努力するよう、
平和の主であるキリストに、
わたしたちの祈りを取り次いでください。アーメン。

+ John C. Wester

サンタフェ大司教区 ジョン・C・ウェスター大司教

+ Paul D. Egan

シアトル大司教区 ポール・D・エチエン大司教

+ Peter Michiaki Nakamura

長崎大司教区 ペトロ中村倫明大司教

+ Alexis Mitsuru Shirahama

広島司教区 アレキシオ白浜満司教

+ Joseph M. Tabernic

長崎大司教区 ヨセフ高見三明名誉大司教

被爆 78 年 2023 年 8 月 9 日 長崎大司教館